

日銀神戸

支店長の視点

別所昌樹氏



神戸港の風景が好きです。異国とのつながりを感じるからです。中でも私の職場に近い新港町の建物群は昭和初期の姿を伝えます。新港貿易会館、旧生糸検査所K-I-T-O、そして神戸税関です。

さて税関といえば関税、関税といえば注目的はトランプ関税です。ただ、経済への悪影響は今のところ懸念したほどではないようです。国際通貨基金（IMF）は4月、今年の世界経済成長率見通しを前年比2・8%に引き下げましたが、直近はほぼ昨年並みの同3・2%まで上方修正しました。兵庫県短観の業況判断も製造業で改善が続いています。

なぜでしょうか。まず、関税率は当初発表より抑えられました。次に、米国では消費

米関税の「波」、なお注視を

者物価はさほど上がっておらず、個人消費は堅調です。自動車は米国外の輸出企業が、他の多くの財は米国内の輸入企業が関税を吸収しているのが典型的なようです。加えて、人工知能（AI）ブームが予想を上回る投資拡大と株高による資産効果を生んでいます。為替の面でも日本は、春以降のユーロ高が対米輸出の逆風となりうる欧州とは状況が異なります。兵庫県では、四輪完成車メーカーがないこともマクロの悪影響を抑えているとみています。

ただ、米国の通商政策にはなお不確実性があります。中国など第三国経由の影響に注意が必要でしょう。また米国では、今後も企業が関税を負擔し続けるか、あるいは販売価格に転嫁していくのか。これは設備投資、個人消費いずれに影響するのか分かれ道です。日本国内では、完成車メーカーが関税の多くを負擔する自動車サプライチェーン内の構図が今後変化するか。これは賃上げの持続性を見極めるうえでも重要な点です。